

ケアとクィアネスの交差点としてのプロジェクト 「ドゥーリアのボールルーム」(2026/6/10~28)が アートセンターBUGにて開催

アートワーカー(企画者)向けプログラム「CRAWL」選出企画「ドゥーリアのボールルーム」



「CRAWL」は、株式会社リクルートホールディングスが運営するアートセンターBUGで行っているアートワーカー(企画者)向けのプログラムです。企画書をコミュニケーションツールとして、メンターとの壁打ちや参加者同士のピアレビュー、ネットワーク構築などアートワーカーの機会と場をつなぎ、未来へつづくつながりを形成していくことを目的としています。

「CRAWL」で選出されたもによる「ドゥーリアのボールルーム」を2026年6月10日より開催いたします。

本プロジェクトは、異なるマイノリティが交差する地点を検証し、新たな連帯の可能性を模索する試みとしてスタートしました。

「ケア(生を支えること)」「クィアネス(規範を揺さぶること)」あるいは「グリーフ(喪失と共にあること)」が重なり合う場所に立ち、その「居合わせ」の瞬間に生まれるAesthetics(美学/感性学)を解明していく。そのプロセスを走らせ、その状態をあるがまま提示しようとするものです。

大きな見どころとして、会場では医療的ケア児の家族によるライブ・パフォーマンスを行う予定です。また、パフォーマンスが行われない時間、会場はその姿を変容させます。写真・動画・生物を起点としたインスタレーションを通じ、アートセンターを市民のための「公園」の理念に沿うような、開かれた公共圏として再定義(アップデート)します。

展示、そして観客とのインタラクションの時間の中で、私たちが共に生きるための「居場所」の残像と予感を描き出します。

展覧会のみどころ

1. ケアとクィアネスが交差する、変容の「ボールルーム」

ケアという個人的・日常的な営みと、クィア文化が持つ抵抗と祝祭の精神が交わる地点を提示します。ケアラー(家族)がドラッグクィーンへと変容し、子どもたちの声や音に身体を委ねるリップシンク・パフォーマンスは、固定化された役割を超えた「生」の輝きを放ちます。それは単なるショーではなく、連帯の端緒を捉えるための切実な実験場です。

2. 「居合わせ」の空間がもたらす新たな鑑賞体験

パフォーマンスが行われない時間、会場は展示とインタラクションの場として、ゆったりと滞在できる空間へと姿を変えます。そこには何が配置され、どのような気配が残されているのか。インタラクティブな工夫を備えた写真展示や、パフォーマンスの断片が織りなす空間を通じ、その場に誰かと「居合わせる」ことの意味を、観客自身の身体感覚を通じて体験できます。

3. 公共圏としてのアートセンターの再定義と、アクセシビリティの拡張

BUGという場所を、誰もが自分のペースで滞在できる「公園」の理念に沿うような空間として開き直します。車椅子での来場はもちろん、その場に居続けることも、あるいは「たん吸引」のために大きな音を出すことも許容されます。既存の鑑賞規範を解きほぐし、多様な身体や背景を持つ人々が等しく「そこにいてよい」と感じられる場所を創出します。

関連イベント

会期中の週末に医療的ケア児の養育者によるドラッグパフォーマンスの実施を予定しています。

詳細・予約方法はウェブサイトやSNSでご案内します。

企画者プロフィール



も/MO

台北育ち、京都市在住。

覚えやすくするために名字の一字目を活動名の「も」としています。

近年は、NPO法人Dance Boxのダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」のメンバーとして活動。

多様な在り方を持つメンバーそれぞれが「わたし」らしい踊りを仮に置くところからはじまり、(わたし、ではなく)その場に確信が表れるべく、稽古を続け、関係を揉み合っているうちに、上演日がやってくる、そのような日々を送っています。

システムエンジニアとしてキャリアを積む中、自身の病やそこからはじまる医療、医療以外の社会的な経験を通じて「ケア」とその手前にあるその対象が持つ共振性に関心を持つようになりました。言語化すると難しいことでも、アイデアを直感的に理解したり、いろいろな人と体験を共有できるような企画を立案していきます。

主な出演作に、Monochrome Circus「FLOOD」(2019、京都芸術センター)、Mi-Mi-Bi「島ノ舞」(2024、豊岡演劇祭公式プログラム)など。

企画者もさまは2026年4月19日、ご逝去されました。最後まで本企画「ドゥーリアのボールルーム」の実現にご尽力いただきました。

そのご遺志を引き継ぎ、ご家族の皆さまのご理解もいただき、関係者一同で実現いたします。

もさまのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

関係者プロフィール



ドラッグクイーン監修:エスムラルダ

ドラッグクイーン、ライター、脚本家、歌手、俳優。

1972年生まれ。1994年よりドラッグクイーンとして各種イベント、メディア、舞台公演等に出演し、大学や自治体等での講演活動も行っている。2002年、東京都のヘブナーアーティスト(大道芸人公認制度)ライセンスを取得。2018年には及川眠子・中崎英也プロデュースによるドラッグクイーン・ディーヴァ・ユニット「八方不美人」のメンバーとして歌手デビュー。また2012年、テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞に本名で応募した作品が優秀賞受賞。以後、ドラマ・映画・舞台の脚本を手がける。2026年、脚本・作詞を手がけたミュージカル『檸檬SOUR』が、「Musical Awards Tokyo2026」のミニシアター賞を受賞。

Twitter/Instagram:@esmralda001



パフォーマンス監修:関根信一

演出家・劇作家・俳優。オープンリーゲイの劇団フライングステージ代表。

フライングステージでの作/演出/出演作に、同性婚の問題を扱った連作『Friend, Friends 友達、ともだち』『Family, Familiar 家族、かぞく』『LIFE, LIVE ライフ、ライブ』、小学校を舞台にした『子どもと大人のフライングステージ アイタクテとナリタクテ』、ゲイの高校教師のカミングアウトをテーマにした『お茶と同情 Tea and Sympathy』、HIV内定取消訴訟を題材にした『Rights, Light ライツ、ライト』、ゲイの老いと死を描いた『Four Seasons 四季 2022』、夏目漱石『こころ』をモチーフとしたオムニバスの二部作『こころ、心、ココロ 日本のゲイシーンをめぐる100年と少しの物語』など。

毎年末には、クィア演劇のイベント「gaku-GAY-kai」を主催。ゲイタウン新宿2丁目を舞台に名作戯曲を翻案した『贗作・冬物語』『贗作・終わりよければすべてよし』『贗作・十二夜』(以上、シェイクスピア原作)、『贗作・桜の園』(チェーホフ原作)、『贗作・真面目が肝心』(オスカー・ワイルド原作)などを作/演出/出演。

児童青少年向けにLGBTQを題材にした『わたしとわたし、ぼくとぼく』(劇団うりんこ)など、他劇団での作/演出も多く手がける。

■展覧会概要

・タイトル：

アートワーカー(企画者)向けプログラム「CRAWL」選出企画
ドゥーリアのボールルーム
<https://bug.art/exhibition/crawl-mo/>

・会期：2026年6月10日(水)～28日(日)

・主催：BUG(株式会社リクルートホールディングス)

・開館時間：11:00～19:00 火曜休館 入場無料

BUG

〒100-6601

東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー1F

Gran Tokyo SOUTH TOWER 1F, 1-9-2, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo

交通アクセス

JR東京駅八重洲南口直結

東京メトロ京橋駅8番出口から徒歩5分

東京メトロ銀座一丁目駅1番出口から徒歩7分

<施設情報>

- ・BUGはオフィスビル1階にあり、入り口から段差なくアクセスできます。カフェの奥に広がる空間がBUGです。
- ・授乳室は設置していません。
- ・多目的トイレはビル内の同フロアに1つあります。(おむつ交換台、ベビーチェア、オストメイト設置)
- ・トイレは地下1階(八重洲地下街)に複数あります。エレベーターまたはエスカレーターが利用できます。
- ・BUGには専用駐車場はありません。ご来館には公共交通機関をご利用ください。

※BUGでは様々な事情を持つ皆様をお迎えできるよう、スタッフが可能な範囲でサポートや情報提供に努めています。

お問い合わせ先:株式会社リクルートホールディングス リクルートアートセンター 広報担当

Mail : info.bug@r.recruit.co.jp